

先月号での結論として次のようなレポートを試みた。

植松 聖 (死刑囚) は当初、障害のある子供たちを自分の力で支えていくのが、彼の願いであった。青年として真面目に障害者支援に取りくんだ。その姿を、親鸞聖人が言いきっている「聖道の慈悲」と云うのは、「すえとおらない」どこかで限界が来て控折してしまふ。聖道の慈悲と云うのは、今日の言葉でいえば、「善意でもって人を支援していかう」ということで、こう云う考え方は、障害者支援についてだけではない。虐待を受けた子供たちをどう支援していくのか、引きこもりの若い人達をどう支援していくのか、貧困に陥っている母子家庭をどう支援していくのか。等々、こういう支援を、どのように考え得るか、親鸞聖人の「聖道の慈悲」と云う視点で、考えてみました。

今回は、前回で捉えることが出来なかった問題、彼の手紙にも書かれてある、「障害者は不幸を作ることしかできない、だから殺すのだ、こういう考え方というのは、全人類の心の隅に隠したおもしろいのだ」と。

全人類ですから、誰もが持っている、むしろこの中に私も入っている。この言葉を否定できるか、ということですが。

事件当初、私の周囲でも多くの話題になり、いろいろな思いを語れた。彼の行為を許すわけでは無いが、彼の犯行の動機にも一理あると云った言動が多く聞くことが出来た。それに対し、私は、反論できなかった。それに19名もの多くの方たちが殺され、25名もの人達が傷ついたので、報道では写真も出ない、名前が一切公表されなかった。また裁判の審理中は、一個の人格を持った日本人であるのに、被害者の名前は「記号」でもって進められたというのはどういうことなのか。人名を捜査当局が公表しなかったのかも知れないが、メディアなんかでも何か配慮がききすぎて、そのこと自体の中に無意識の差別があるような気がしてならない。

実際に今回の事件を受けて障害者施設のみならず、老人ホームなどでも不安を感じるという人たちも大勢おられることでしょう。私も後期高齢者の仲間ドブプリしたっている。施設等でお世話にはなっていないものの、何もできなくなりつつある現実を踏まえて、世の中からいらぬ存在だと思われてしまっているのではないかと、寄る辺なさのようなものをかんじる。

「世の中に間に合わないもの」は排除するという思想。邪魔で、厄介で、お荷物なのは人間存在です。「する」「できる」の話で云えば、自分もこれからどんどん出来ないことが速度を上げて増えてくる。寝たきりになってしまえば何もできなくなる。何も出来なくなるといことは、重度の

善人なおもて往生とく、いわんや悪人おや、
しかるを、世のひとつねにいわく、
悪人なお往生す、いかにいわんや善人をや。この条、
一旦そのいわれあるにたれども、
本願他力の意趣にそむけり。
そのゆえは、自力作善のひとは、ひとえに他力をた
のむころかけたるあいだ、弥陀の本願にあらず。
しかれども、しかれども、自力のころをひるがえ
して、他力をたのみたてまつれば、真実報士の往生
をどぐるなり。

(歎異抄第三章)

囲いの中の文章は、優生思想について直接述べられているものでない。歎異抄(たんにしよ
う)といわれる親鸞聖人が平素おっしゃっておられた言葉を、唯円さんの筆になるもの、有名
なことばです。衝撃的な言葉で書き始められています。声に出して、読み上げて下さい。

【語句解説】

善人

自分を善しと思っている人。佛に成るため自分の方によ
て善行にはげんでいひと。

悪人

自分のあり方を悪しと恥じ悲しんでいる人。佛に成るため
どのような善行積めず恥じかなしむ。

自力作善

自分の力をたのみとして、さとりを開くための善行を修め
る人

往生

どんなことに会っても堂々と歩む人と成る。

障害者と同じことです。そうなった時に、
孫たちの会話は、「一度も病院の世話にもな
ってないのに健康保険が差し引かれる。
そんな所にエネルギーを使うのは無駄だよ」
直接云われないが年寄りは「金食い虫」よなあ
二十年前、乙武洋匡さんが「五体不満足」
と云う本を出版され、580万部も売れ、超
ロングセラーなっている。

自分に最初の子供が授かった時、友人から
「男がいい・女のこがいい」と尋ねられた時
「どっちでもいい」と答えたら、即座にその
人は「五体満足ならね」と。五体満足と云う
言葉に虚をつかれた思いがある。

「どっちでもいい」と答えた裏には、選べな
いから男でも女でもいい、正常ならいいとい
うおもしろい内に、優生思想(子孫の素質を優
れたものにする)がすでに仕込まれてあつた
のだ。